

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 9 日現在

機関番号：23702

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20592559

研究課題名 (和文) 再発がん患者の治療法の意味決定を支援する看護援助モデルの開発と評価

研究課題名 (英文) Development and evaluation of the nursing support model for the decision making of the therapy of the patient with recurrent cancer

研究代表者

布施 恵子 (FUSE KEIKO)

公立大学法人 岐阜県立看護大学・看護学部・講師

研究者番号：20592559

研究分野：臨床看護学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：再発がん患者、意思決定、治療法、看護援助モデル

1. 研究計画の概要

研究の全体構想は、再発がん患者が治療法を意思決定するときの支援システムの構築であり、本研究の目的は、支援システム構築の基礎となる再発がん患者の治療法の意味決定を支援する看護援助モデルの開発と評価を行うことである。本研究は、看護援助モデルを検討するための基礎資料となる、再発がん患者の治療法の意味決定への影響要因を明らかにすることを目的とした調査研究と、調査研究結果を基に看護援助モデルを考案して実践と評価を行う実践研究の2段階構成となっている。

再発がん患者の治療法の意味決定への影響要因を明らかにすることを目的とした調査研究の対象は、“がん診療連携拠点病院”に指定されている「がん専門病院」「大学病院」「特定機能病院以外の病院」で治療法を意思決定した再発がん患者である。調査内容は、治療法の意味決定過程において患者の思いや考えや感情に作用を及ぼし、患者の思いや考えや感情及び行動に反応や変化を生じさせた要因を半構成的面接法で調査し、質的帰納的方法で分析する。

調査研究で得られた結果を基に、再発がん患者の治療法の意味決定を支援する看護援助モデルを考案し、臨床現場でモデルを用いた援助を行い、実施した援助を評価することによりモデルの臨床への適応を評価する。

2. 研究の進捗状況

再発がん患者の治療法の意味決定への影響要因を明らかにすることを目的とした調査研究を行った。対象は治療法を意思決定して治療を開始した再発がん患者であり、方法は研究者が作成したインタビューガイドを

用いた半構成的面接法である。“がん診療連携拠点病院”に指定されている首都圏の大学病院とがん専門病院、地方都市の総合病院とがん専門病院の4施設を研究フィールドとして調査を行った結果、男性13名、女性13名の面接調査を実施する事ができた。主な疾患は、肺がん、乳がん、胃がん、卵巣がん、膵臓がん等であった。面接内容を質的帰納的に分析した結果、「医師からの再発に関する説明」「医師からの治療法の説明」「治療に対する期待と不安」「生活と治療のバランス」「個人の価値観」「セカンドオピニオンの難しさ」など8つの影響要因が明らかとなった。

調査研究で明らかとなった影響要因の意思決定過程における関係性や文献検討で明らかとなった内容から、再発がん患者の治療法の意味決定を支援する看護援助モデルを考案した。臨床現場でモデルを用いた援助を行うために、研究協力施設の研究協力者と援助モデルに関する意見交換を行い、具体的な援助方法の検討を行った。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

調査研究を行った研究協力施設と異なった研究協力施設で実践研究を行おうとしたため、研究協力施設の研究協力者とコンセンサスを得ることに時間を要した。

4. 今後の研究の推進方策

研究協力施設の研究協力者とコンセンサスを得たため、今後は実践症例を増やして実践を評価し、援助モデルを洗練させていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 1 件)

- ① 布施恵子、再発肺がん患者の治療法の意思決定を支援する看護に関する研究、第 24 回日本がん看護学会学術集会、2010 年 2 月 14 日、静岡県コンベンションアーツセンター (静岡県)